東京大学　1991 年度第２問 「後醍醐天皇の政治」 の解き方チャート　その２

次に後半の北畠親房による後醍醐天皇への批判についてである。

設問

Ｂ　北畠親房は、天皇の政治に対して、どのような立場からどのような批判をもっていたか。３行以内で述べよ。

ここで注意しなければならないのは、どのような立場からを「政権の中枢にいた」とか「後醍醐天皇の側近の立場から」としたのでは答えにならないことである。問われているのは、彼の政治的主張（立場）である。

今こそ積年の弊を一掃する好機だったのに、→「積年の弊」とは ［　　］であり、これを一掃する好機だったのに

ここから考える

Ａブロック

それどころか、本所の領地でさえも（それどころか）

ことごとく勲功のあった者に与えられ、　→　天皇の方針は、［　　］であったため［　　］まで［　　］に［　　］として与えられた。

Ｂブロック

由緒ある家が

ここでいう「由緒ある家」とは、平安時代から鎌倉時代を通じて形成された公家の［　　］のことを指している。

Ｃブロック

ほとんど名ばかりになってしまった例もある。こうして勲功を鼻にかけた者たちが

天皇の［　　］は、［　　］を無視したものであった。

Ｂブロック→ 公家が［　　］

Ｃブロック→［　　］が混乱

Ｄブロック

天皇の政治を堕落させた結果、皇威もますます軽くなるかと見えた

以上から、北畠親房の立場は、［　　］を重視する［　　］政治をよしとする立場である。

Ｅブロック

⇩

［　　］重視の［　　］政治をよしとする立場から、　←　Ｅブロック

［　　］よる［　　］への［　　］給与や　←　Ｂブロック

［　　］を無視した［　　］が、　←　Ｃブロック

公家の［　　］や［　　］の混乱を招き、　←　Ｄブロック

天皇の威信を低下させた（と批判としている）。